

## 委員派遣成果報告書

視察内容

小中一貫教育について

視察日時 平成28年11月10日、11日

視察場所 鳥取県若桜町若桜学園

総務文教常任委員 連記 かよ子

若桜町は、鳥取県東南部最東端に位置し、人口が3,447人、面積約200km<sup>2</sup>の観光が主産業の町で、多くの森林に囲まれており、自然豊かなところがあります。兵庫県境にある氷ノ山は夏は登山、冬はスキーと季節によってさまざまな楽しみ方のできる山として親しまれています。

若桜学園は、お城をイメージして、建てられた校舎で豊かな自然にとってもマッチして、子どもたちの学舎としてふさわしい外観であります。視察研修では、事務局と校長、副校長の3名の方々が、小中一貫開校までの経緯や、目指す子ども像など、詳しく説明していただきました。

それによると、若桜町には、池田小学校と氷ノ山の近くに分校があり、「学校の在り方懇話会」が平成18年6月に設置され、児童生徒の減少への対応について、若桜小学校の耐震補強への対応について協議がなされ、小中学校併設による小中一貫校教育が望ましいという答申が出され、平成20年に若桜町小中一貫教育調査検討委員会が設置し、現在の若桜中学校に隣接した校舎を増築する併設型の小中一貫校による教育を目指すとし、平成21年に若桜町小中一貫教育検討委員会を設置され、年3回の全体会、2回の運営委員会などが開かれ、8月に導入の提言を取りまとめています。そして、平成22年度に若桜町一貫教育設立委員会が設置され、学校名を「若桜学園」に決定したという経緯があります。

現在、若桜学園には、小学校88名中学校55名の生徒が在籍しているが、少子化のために10名近くが減っているということでありました。若桜学園では、1年から4年生までを前期、5年から7年生までを中期、8年9年生を後期とし、児童生徒の成長に適した3ブロック制を導入しており、入学式は1年生のみ、卒業式は9年生のみとしており、4年生7年生のときに立志式を行っています。

説明されたなかでは、あまりデメリットのことはなく、小規模校の選択として小中一貫教育の実施についてメリットの方が多いのではないかという印象を

もちました。9年間を通してこどもたちに対しての一貫した指導方針や、また、教員の配置については、小中一貫教育加配教員の配置と小中学校各教諭への兼務発令がされていて、生徒143人に対して、ALTを含めると41人の教員で子どもたちの教育を行っています。

来春から一貫校について木頭小中学校でも検討されていますが、北川小学校の4名を転入生を加えても木頭小学校は24名の生徒しかおらず、木頭中学校は23名という複式は避けて通れない環境にあります。また、若桜学園のように年数をかけて議論をする余地は木頭にはないことが気がかりではありますが、まず大筋は決めておき、具体的なことは始まってからでも遅くはないのではないかと思います。

北川小学校が休校になる来春を目指して移行することが望ましいのではないかと思います。木頭の子どもたちにとって、何が一番ベターなのか、木頭地域にあった小中一貫教育の方向性を早く打ち出すべきではないかと思われま

以上で私の報告書といたします。